

今回の特集企画は、中村雅也先生の担当による「低侵襲脊椎手術の功罪」であった。低侵襲脊椎手術によるメリットだけでなく、手術適応および合併症回避の重要点を丁寧に解説いただく内容であった。患者の立場からは低侵襲性という魅力にひかれるが、外科医の立場からは手術手技のピットフォールと中長期的問題点が議論の中心課題だろうと思う。本特集は低侵襲脊椎手術に熱心に取り組んでおられる先生方による玉稿であり、読んで納得するところばかりであった。脊椎加齢変性に起因する脊椎脊髄疾患は高齢者に多く、手術は住宅リフォームならぬ脊椎リフォームに相当するため、手術安全性はもちろんのこと、低侵襲性および費用対効果が重要であることはいまでもない。さらに、周術期管理から退院までを考えれば、手術は看護・療養支援などを含めた一連のチームワークのワンピースだろうと思う。

リフォームといえば、この編集後記を書いている今は、ちょうど我が家のリフォーム中である。家族会議でいろいろと相談し、最終的に仮住まいに移ることに決め、少し大掛かりなりフォームを依頼することとなった。仮住まいでは必要最小限の物しかなく、少し不便な生活を強いられているが、家族で楽しく乗り越えられそうである。依頼した工務店のリフォームに対する考え・実績、そして丁寧な説明が判断材料であった。よく考えてみれば、脊椎リフォームに相当する手術も同じことではないかと思う。それぞれの患者さんの病状に合った手術方針を選択し、手術安全性・低侵襲性を考慮し、手術ゴールである日常活動性の改善につながる手術を提供する。施設としての手術実績の積み重ねも重要であり、手術の大小に関係なく、手術結果は手術を提供する外科医の science, art, そして humanity の総合点に相当するものと心得ている。

本特集が読者の皆さんの手元に届く頃には、我が家のリフォームも完成しているであろう。住宅リフォームの安全対策、省エネ改修、そして最終的な費用対効果など、ますます医療現場の話と通じることが多いものと思う。低侵襲脊椎手術のよい点ばかりでなく、その背後にある技術的ピットフォールと中長期的問題点を学ぶことは、低侵襲脊椎手術を目指す外科医にとっては必須だろうと思う。外科医は医学者であり、技術者であり、そして医療従事者の一員である。建築現場ならぬ医療現場でのチームワークに貢献したいと思う。

(高見俊宏)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

山崎正志 (編集委員長)
亀山 隆 園生雅弘 高橋敏行
高見俊宏 筑田博隆 永島英樹
中村雅也 根尾昌志 原 政人
飛驒一利 堀 正明 松山幸弘
安原隆雄

Vol. 35 No. 9
(2023 年 3 月 10 日発行)

毎月 1 回 25 日発行

1 部定価 (本体 2,500 円 + 税)

(配送料別)

年ぎめ予約購読料 33,300 円 + 税

送料弊社負担

発行/株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷 6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当: 山岸)

印刷所/三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所/

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2022,
Printed in Japan

JCOPY (出版者著作権管理機構 委託出版物)

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。